

平成29年度 第1回嶺北地域公共交通協議会議事録（要旨）

〈日時〉平成30年2月22日（木）午後1時から午後4時まで

〈場所〉本山町プラチナセンター 2階ふれあいホール（本山町本山569-1）

〈内容〉

（1）協議会設立の目的・ねらい

（事務局）

資料1により説明。質問、意見なし。

（2）地域公共交通維持・活性化について

（四国運輸局）

資料2により説明。質問、意見なし。

（3）嶺北地域公共交通協議会設置要綱（案）について

（事務局）

資料3により説明。

（委員）

実際になにか変更していくときには地域公共交通会議も必要になってくると思う。4町村のうち、地域公共交通会議の設置がない箇所がある。当協議会で兼ねることもできるが、その場合、要綱に書いておく必要がある。これは別途設置するか。

（事務局）

設置することができてない町村もある。もし必要であれば、当協議会で兼ねることができる規程とするなど対応していきたいと思っている。

（委員）

この会議の部会や分科会として作った各町村会議をもって、地域公共交通会議をすることもできるので、これをもって別にやりやすいようにしていけばいいことなので、それぞれやりやすいようにしていただきたいと思う。必ず必要になってくると思うので。

（委員）

第5条第4項について、「会議は原則として公開する。ただし、会議を公開することにより公正かつ円滑な議事運営に支障が生じると認められる協議については、非公開で行うこととする」とあるが、あえて住民への多様な意見を求めることもあるし、基本的には、公開すべきだと思う。

(事務局)

原則公開だが、例えば、事業者の利益に関わる事項など、繊細な内容を協議する際は非公開を考えている。

(委員)

ハイヤーは公共交通になるか。

(事務局)

そのように認識している。

(委員)

JR、バスなどは公共交通なのにハイヤーはどうかなと思う。

(委員)

地域公共交通活性化再生法第4条にタクシーも公共交通になると明記されている。

(事務局)

先ほど指摘があった、地域公共交通協議会の部分については、こちらの方で検討し、皆様に報告させていただく。

嶺北公共交通協議会設置要綱について、ご承認の方は挙手をお願いします。(全員挙手)

全員の賛成により、当協議会設置要綱は制定及び施行された。

(4) 嶺北地域の公共交通の現状

(各公共交通事業者及び各町村)

資料4-1から4-7により説明

(委員)

今すぐでなくてもいいが、もしかすると実際動きたい人が、タクシーに乗れないで我慢している人もいると思うので、実際にいつもどのあたりを動いていて、どういう人を乗せていて、どういう動きがあるのかというのはつかまないと、本当はこういう動きをしたいのに、タクシーはあまりそういう所にはいないのか、ちゃんと運んでいるかとか、ギャップがわかると思うので、もっと仕事があるところがわかると思う。そういうことも考えられるので、日報でもいいので出してただけなら。

(委員)

今日はタクシーの乗り入れを一通り確認していきたい。得意なところ苦手なところあると思うので、利用したい人が利用できているか。最終的には補助の話も出たが、タクシー営業である以上、運賃を

変えることは難しいが、乗り合いにすると、自由に変更できるので。乗り合いタクシーとっているが、乗り合わないの。乗り合うことはあるけど乗り合わないタクシーみたいな、運賃を下げることはタクシー営業は難しいけど、バスはできるので。その時に、ニーズと現状がわかればいろんなことができると思うので、データを出してもらいたい。

(タクシー事業者)

データは出るには出るが、町のタクシーが75歳以上であれば、どなたでも病院に行く場合には補助が出るようになっている。当町の場合は地域が狭いので、タクシーチケットの補助をもらって、例えば、隣町の病院へ行ったら、町内を走行した金額のみを補助するという面もあることから、大豊町の乗合タクシーみたいに、高知市内を千円二千円の自己負担で、というような方法があれば、もうちょっと利用が増えると思う。

(会長)

これから公共交通を改善する当たり、現状を把握することが大事なので、それを検討していこうと思う。

その時にタクシーの事業者サービスに関することは国がするとか、それを町がつくるとか、新たな対策が出てくると思うのでご協力をよろしくお願ひしたい。

(5) 今後のスケジュール

(事務局)

資料5により説明。意見なし。

※閉会に当たって

(委員)

お願いしたいことが一点、次回、住民地域の皆さんが、話せる機会があると思うが、資料を出していただくが、感想とかではなく、こういう状況であって、こういう人たちが居て、こういう困りごとがあるの、こういうことができないかということ、書面にして出してもらいたいと思う。もちろんその時に思い浮かぶ部分があると思うが、年度明けまでの宿題として。今日来られた方は、どうせ公共交通が必要ない方、公共交通で来られた人はいるか。地域の皆さんはそこを理解されてると思うけれども、16時2分がここから脱出するための最終バス、そういう地域だってことをまず理解しないとイケない。うちはいいんだということ、そう割り切ってもらって。この会議やるなかで、この地域でどのくらい車がない人が来てもらえるのか、待つてでも使いたくない人でも車はお酒飲んだら使えない。タクシーがあればいいけど、などという状況をどういう風に変えていきたいのかを考えたときに、お金がかかってめんどくさいと思うのか、便利にしていけないか、使わなくても使いそうな人に呼びかけていって、使わしてくださいという約束をしてもらいたい。書面には多分こうすればこうなるだろうということではなく、こうやって呼びかけていく誓約書みたいなものを出してほしい。利用してもらうにはどうすればいいか、こうしないとだめだっというのをここであれば、

商売にならないうちはいままでこうやってやってきたということもあると思うが、やれることでやれない部分もあると思うので、できることを見つけてやって行きたい。

3kサポート、つまり運転をするべきではない方の事故を防ぐためには、かなり不便であるということはないようにする。高齢者は元気なうちに公共交通に乗れるようにしておかないと、家にこもるしかないことになるという現状があることを踏まえて考えていく必要がある。嶺北高校に通う高校生を確実に確保していきたいと思っていて、高知方面は、バスでそのまま行くのか、JRに乗り換えるのか、行きはいいけど帰りは接続していないこともあるし、週末は早いとか、部活がある子とか、そういうことも考えて確保できればと思う。地域で子供が動けないところの方が人口減少が激しい。つまり地域が持続可能でなくなるという大きな原因が公共交通にある。解消するための方法を子供の身になって考える、小中高の皆さんと対話をするのも大事になってくる。大勢の観光客が乗れるようにするための公共交通も考える必要がある。大人も一年に一回くらいは乗れるようにするにはどうすればいいかというのも考える必要がある。どうしてこの地域に公共交通が必要なのかっていうのも考えて行ってほしい。これからそのような問いかけをしていきたいと思っている。

具体的に一つひとつ議論して行って、協議会の目標もすばらしい。前より便利で公共交通も使いやすくなっているので、そういう問題をクリアするとまた違うと思う。